

ルピナス 230



第114号

令和4年11月10日(木)

藤野地区パークゴルフ大会（八剣山パークゴルフ場）



コロナ禍の人口減少と 少子化に伴う課題

藤野地区町内会連合会 副会長 仙北 英治

一昨年春からの新型コロナウイルス感染が続き、町連の最大イベント「ふじのふるさと祭り」も三年間中止され、各部の行事活動も出来ない状況で感染防止の我慢が続いております。また、第八波からはインフルエンザとの同時流行も想定され心配されております。

藤野地域は区内の他地域と同様に、少子高齢化を伴う人口減少が進行しています。特に高齢化の傾向が顕著であり、令和四年七月の住民基本台帳によると、六十五歳以上の高齢人口割合は札幌市全体の28.1%に対し、藤野地区は39.4%と、市内87箇所中、5番目に高くなっています。人口については、昭和六十年（1985）をピークに減少し続けており、ここ最近の10年間では約10万人が減少しています。こうした人口構成の変化で年少人口も減少しており、次のような課題への対応が求められています。

①藤の沢小学校の小規模化のため、通学区域を再編し、藤野南小と藤野小に編入する方向で検討しています。

②簾舞中の小規模化のため、通学区域を再編し、藤野中に編入する方向で検討しています。

③おおむね15年後を想定した取り組みとして藤野小と簾舞小の小規模化に向け、藤野、簾舞エリアで中一貫校の設置を検討します。設置場所は位置や面積を勘案し、藤野南小の敷地の活用が望ましいと考えています。統合され、使われなくなる跡利用の検討が必要となります。



令和4年度 藤野地区パークゴルフ大会開催

男子は井上昭さんが85で優勝

令和四年度藤野地区パークゴルフ大会（藤野町連主催）が九月四日（日）、南区砥山の八剣山パークゴルフ場（高島観光ファーム）で開かれました。



開会式

大会が行われるのは三年ぶり。男子三十二人、女子二十人の計五十二人が参加し、36ホールストロークプレイで競いました。絶好の秋日和に恵まれ、楽しく四つのコースを回っていました。



さて、どう攻略するか

参加者の一人、山本晃功さん（藤野緑町）は7番ホール（パー3）で、見事ホールインワンを達成。「今年はこちらで3回目だが、何回やっても気持ちがいいね」と顔をほころばせていました。



ホールインワンを達成した山本さん（中央）

男子で優勝したのは井上昭さん（野々沢）で、85という圧倒的なスコアでした。女子は菊地とも子さん（西藤野）が優勝しました。成績上位三人は次の通り。

「男子」

優勝

井上 昭（野々沢）スコア 85

準優勝

武永 均（西藤野）スコア 92

三位

林 修一（西藤野）スコア 97

「女子」

優勝

菊地とも子（西藤野）スコア 100

準優勝

守谷 博美（西藤野）スコア 100

三位

笹川みさ子（藤野中央）スコア 104

※同スコアは年齢上位者が優先



カップイン

特別積立金を設置 検討委員会

藤野地区町内会連合会では、財政を含め特別積立金運用の在り方を検討する「特別積立金検討委員会」を理事會に設置しました。現在、委員による検討がすすめられており、藤野地区町内会連合会定期總會に答申書が議案として提出されることになっています。

令和四年度の 各部催しの実施状況

令和四年度の藤野地区町内会連合會の各部の催しの復活状況は、久しぶりの開催となった催しのあった一方で今年度も中止とせざるを得なかった部もあるなど、依然としてコロナの影響が響いているようです。

町内会連合會最大のイベントである「ふじのふるさと祭り」は三年連続中止となりました。文化部の「藤野地区文化展」「写真展」も中止となりました。一方、三年ぶりの開催となった催しもあります。体育部の「藤野地区パークゴルフ大会」です。また、環境部の「花植え活動」、地域安全部の「交通安全啓発活動」も行われました。

〜藤野地区町内会連合会女性部〜
三年ぶりにリーダー研修実施

藤野地区町内会連合会女性部のリーダー研修が九月六日（火）、三年ぶりに行われました。各単町の部長、副部長ら二十人が参加して、有意義な一日を過ごしました。

今回の研修地は札幌から出て小樽へ。午前八時五十分、藤野地区センター向いのさか写真館さん前に集合。藤野の空は朝から霧雨で肌寒く少々心配でしたが、朝里峠を抜けると、青空が広がり、まばゆいばかりの太陽が顔を出してくれました。

小樽に着くと、まず「かま栄」のかまぼこ工場を見学。工場の担当者の方から、かま栄の製法は昔から変わらないことと、職人さんの手作りであるとの説明を受け、みなさんひとしきりうなずいていらつしやいました。小樽貴賓館旧



青山別邸
で見学と
昼食。旧
青山別邸
は、平成

二十二年、国から登録有形文化財に指定されました。以前の青山別邸より、美しさが増したような印象がありました。庭の秋明菊、コスモスが風に吹かれ癒しを感じ取

ることができました。



北のウォール街、旧日本銀行小樽支店金融資料館は千九百十二年の建築。歴史的建造物の中で、日本銀行の歴史、金融業務の流れ、小樽の発展について理解することができました。小樽芸術村旧高橋倉庫ステンドグラス美術館に所蔵されている作品は、十九世紀後半から二十世紀初頭にかけてイギリスで制作され、実際に教会の窓を飾っていた作品です。圧巻の色の美しさでした。



帰りは台風が近づいて風が強くなりしましたが、無事、リーダー研修を修了することができました。

（女性部長 齋道弘子）

無事故願
街頭啓発活動で
交通安全を呼びかける

全国交通安全運動、札幌市民総ぐるみ交通安全運動に合わせた藤野地区町内会連合会などによる街頭啓発活動が行われ、「スピードダウン」などと書かれた旗を掲げ、ドライバーらに安全運動を呼びかけました。

交通安全運動は年4回行われ、「飲酒運転の根絶」「スピードダウン」「全席シートベルト」などを呼びかけ、また春、夏、秋、冬型などそれぞれの事故の傾向にも対応した重点項目を掲げて取り組んでいます。街頭啓発では、藤野町連のほか藤野地区交通安全推進委員会、藤野地区交通安全母の会はじめ各町内会からも参加しました。

街頭啓発は、春が四月十四日（木）で百六人、夏は七月十三日（水）に行われ百二十六人、秋の全国交通安全運動は九月二十一日（水）から三十日（金）まで展開され、藤野地区でも二十二日（木）に、百十五人が参加して、街頭啓発活動が行われました。



藤ヶ丘南で防災訓練

町内会の防災力を高めることを目的とした、藤ヶ丘南町内会（星野数男会長）の防災訓練が十月十六日（日）午前十時から、町内のそよ風公園（藤野五条五丁目）で行われました。この訓練には町内会から約三十人が参加。札幌南消防署の署員、町内会役員らから防災庫の備品やその使用方法の説明を受け、防災時の対処法などを学びました。



星野会長の開会の挨拶



備品の使い方を説明

非常時に役立つ各種防災用品を保管する同町内会の「防災庫」は、これまで藤ヶ丘センターに置かれていましたが、今年、札幌市の許可も降り、そよ風公園内に新たに設置されて、使い勝手の良さが増しました。星野会長は「今年は町内会設立三十年で、防災庫設置を



記念事業として考えてきた。これを機に、より一段と、防災対応に取り組みたい」と挨拶。札幌南消防署

藤野出張所の佐々木一貴係長も二〇一八年のブラックアウトのように（消防が）すぐに駆け付けられない場合もある。自主防災として機材に慣れていただければ」と話しました。

防災庫には、タンカ、スコップ、ヘルメット、緊急救出用のカナテコ、ボール、ミニバンくらいを持ち上げられるダルマジヤッキといった多種類の機材があり、参加者は使い方方の説明に熱心に聞き入っていました。また、訓練用消火器を使った体験も行われました。



消火器を使ってみる



発電機を起動させてみる



3台の発電機を備える

停電に対応するための発電機は三台所有しており、うち一台はスマホやパソコンなどに対応するインバータ方式で、藤野町連五十周年を記念して十九町内会に導入されたもの。こちらも、実際に起動して、手順を確かめていました。



消防署員による防災用品の使用説明

この後、消防車について説明を受けました。参加した人は「実際に災害にあつたら大変だと思う。

こういう、備えのための訓練の機会があるのはいいこと」と話していました。



耐火服について説明を聞く

十五島公園の炊事広場が閉鎖

札幌市は、十五島公園の炊事広場を長期間利用休止とします。期間はすでに令和四年（二〇二二）十月三日から始まっており、令和十一年（二〇二九）六月ころまでとなっております。北海道電力藻岩発電所の老朽化に伴う更新工事を行うためで、これまで発電に使用していた水を簾舞に設置されている藻岩ダムから放流します。このため川の水が増えて、危険が増すためです。藻南公園（真駒内柏丘十二）の炊事広場も一部利用不可となります。

緑町町内会で「ちょうちん行列」

ローソク出せ出せよ 出さないとひっかくぞ おまけにかつちゃくぞ。

藤野緑町町内会（松枝昌也会長）で八月七日（日）、七夕にちなんだ子どもたちの「ちょうちん行列」が行われました。三年ぶりの復活で、子どもたちの笑顔が広がりました。



続々と集まる子どもたち

「緑の里」前に集合。コロナ感染対策のため、かき氷やワタ飴などはありませんでしたが、短冊に願い事を書いたり、シャボン玉チャレンジで高さを競うなど、ミニ緑日の雰囲気を楽しみました。短冊には「なわとびが上手になりますよ

うに」「旅行に行きたい」「ダンスが上手になりますように」などと、それぞれの願いや夢がこめられました。

願い事を込めて



シャボン玉で緑日気分

午後六時に出発。大きな子と小さな子のための二コースに分かれて町内会を回りました。あらかじめ回覧板でお知らせが回り、家々からは袋にいれたお菓子が配られました。



ローソク出せ出せよ



さあコース分け

この催しには、子どもら四十人、付き添いやサポーターの大人二十人が参加しました。松枝会長は「コロナで中断していたが、少し落ち着いたので企画しました。子どもさんがこんなに来るとは予想以上でした」と話していました。

こんなにつばい さあどうぞ



つばいもらったね

「のんのとオムラサキ」 児童会館で読み聞かせ会

定山溪沿線町内会連絡協議会（福士昭夫会長、沿線協）さくらの森部会が制作した紙芝居「のんのとオムラサキ」（重松彌佐・作、高田弘子・絵）の読み聞かせ会が十月十二日（水）、札幌市常盤児童会館（加藤公美館長）で行われました。六十人の子どもたちは、重松さんの語る物語に熱心に聞き入っていました。

小金湯さくらの森は、札幌市、札幌商工会議所、沿線協の三者により、二〇一六年（平成二十八年）に開園しました。それぞれの役割分担の中で、宣伝・イベント活動を担う沿線協は、紙芝居を広報の

ツールとして児童会館などで読み聞かせ活動を広げてきました。開園時に制作した第一作「こうた」と桜の森」は、さくらの森や地域の成り立ちを背景に置いた少年の物語。そして二〇二〇年に制作された第二作が「のんのとオムラサキ」で、森の中で桜の妖精と虫や鳥たちがドラマを繰り広げます。

これまで藤野や簾舞、定山溪、石山、澄川などで紙芝居を演じてきましたが、常盤は今回が初めて。紙芝居を見、聞き終えた子どもたちは、「面白かった」「虫の名前がいっぱい出てきて楽しかった」などと感想を述べていました。





民児協と警察官らが
高齢者宅を訪問

特殊詐欺への 警戒など呼びかける

藤野地区民生委員・児童委員協議会（星野数男会長）の委員と警察官が九月十日（土）、一人暮らしの高齢者宅を訪問し、特殊詐欺への警戒を呼びかけ、交通安全への注意喚起なども行いました。

札幌市、道警、民児協の三者が協定を結び高齢者宅訪問が始まったのは令和二年。一回目は九月十四日（月）に藤ヶ丘南など三地区二十二軒のお宅を訪問しました。二回目は令和三年十月二十一日（木）で三地区十七軒、三回目は同年十月二十五日（月）で三地区五十一軒、四回目は令和四年二月三日（水）で一地区四軒を訪問しました。そして今回は藤ヶ丘西、本通、高台、西藤野の四地区三十一軒を訪問しました。

さまざまな手口が出現している特殊詐欺。依然として被害が後を絶たない。還付金詐欺などについて説明し「怪しい電話が来たら、警察に連絡を」と、呼びかけていました。



夏祭り特集
高見台町内会
藤ヶ丘西町内会

高見台町内会

町内会長 遠藤 俊一

高見台会館前にて八月六日（日）、夏祭りが開催されました。

コロナ禍での開催もあり、入り口で体温チェックの体制も整えました。心配していましたが該当者もおらず、後日異常もなく無事終われることができて安堵しております。



十四時からみんなでヨーヨーづくり。子どもたちが手伝ってくれたおかげでスムーズに終わりました。

盆踊りの曲に合わせて軽快に太鼓を鳴らす子どもたちが盛り上げてくれ、十六時からいぎスタート。

屋台には、おでん・焼き鳥・焼きそば・かき氷・フライドポテト・クレープ・フランクフルトなど目移りするものばかり、順々に完売していき大盛況でした。



おもちゃ市では、人気キャラクターのクジやヨーヨー、蛍光ブレスレットなども販売しており、暗くなつて来ると子どもたちが腕にはめたりし、カラフルに光るブレスレットにはしゃぐ光景はこちらまで楽しくなりました。

夜になりますと次のプログラムが開始されました。

十八時 子ども盆踊り

二十時 花火大会

二十時二十分 景品配布

子ども盆踊りは大きい子から小さい子まで参加してくれ、十九時二十分頃まで続きました。後から来た子もおおり、親御さんの笑顔が

見ることが出来ました。花火大会では地面に置くタイプの花火で打ち上げと吹き上げの両方で楽しみました。度々聞こえる「お〜」という声に嬉しくなりました。

景品配布には、町内会でお配りしていたお知らせの端に整理券をつけており、その整理券とうちわを交換し、うちわについている番号で景品が違うといったものでした。



みんなで一丸となり大成功となった夏祭りは二十二時に終了となり拍手で終わりました。

藤ヶ丘西町内会

住みよく、明るく、楽しい町内会を目指して夏まつり

町内会長 佐藤 悦子

会員の親睦・交流を深め、良好な地域環境を創造する「夏まつり」が七月二十四日(日)午後二時から、藤ヶ丘おおぞら公園で開催されました。前日の緊急四役会議で天候不順のため、順延となりましたが地域住民の待ちに待った三年振りの、第二十四回イベント開催です。令和元年度までは「納涼盆踊り」と称していましたが、七月下旬の開催にあたり名称の変更を図り、今年度が初めてとなります。



夏まつりに向けて、札幌市内のイベント開催状況と感染症拡大防止対策も踏査・参考にし、二十六枚綴の実施要領(案)を作成して役員会の了承を得ました。

これも、コロナ禍の二年半の中で、各種の諸行事を実施するにあたり、どれだけ、役員会の中で、

話し合われたことでしよう。

基本的感染対策などをはじめ守るべき事を守りながら、地域住民・子供たちが、元気に友達・お隣近所が交流出来る、楽しい夏の思い出や活動の場を、作っていかねければ成らないとの判断です。



さーこれからは役員役割分担で主なものは、つぎのとおり。

【総務部】司会進行のシナリオの作成、広報関係(ポスター)の作成、各戸配布回覧、放送、露店業者・生ビール等の飲物の手配。

【会計部】代金・釣銭の受渡、チェック表の記録、売上金の管理。

【福祉部】ジュース類の販売、救護用品の管理。

【総務部ほか】生ビールの販売。

【環境部・女性文化部ほか】手指消毒、会場内の環境美化・安全の確保。

【青少年部ほか】子供縁日で、おもちゃ・駄菓子の販売。

【福祉推進委員会】輪投げゲームと物品販売の出店。

これらは総務部で、次から次へと決められます。役員一同が一体となり取り組み、この過程が藤ヶ丘西町内会の強みと、考えます。「夏まつり」が始まります。



オープニングは、勇壮なリズムで会場内外を鼓舞する、藤野太鼓で始まりました。

子供盆踊りでは、子供たちの熱気が充満していて、「みんなこれ

を待っていたんだよね」と、聞かえてきた時、主催者側としてとても嬉しく思いました。今年は、二十四回目を、迎えた中で一番入場者が多く、嬉しい気持ちで迎えました。



次に会員の多くの方が期待する豪華抽選会、今年は三年振りという事で景品が六十本と、大奮発され一層の賑わいです。

一等・生ビール二十四缶
二等・メロンゼリー

三等・乾麺詰合せ十二等まであります。最後に会長特別賞の発表。そして、待ってましたとばかり、太鼓の音で北海盆唄が流れたすや、大人の皆がマスク着用で盆踊りに参加しています。(ハドウシタク)

会場では、輪投げゲームと子供縁日が盛況で、また、生ビールで喉を潤し焼き鳥等に舌鼓をうつ方が多く、露店には長蛇の列ができてしまいました。短い夏の風物詩として無事に幕を閉じました。

この、夏まつりに際してポスター掲示協力を頂きました、藤ヶ丘郵便局・藤ヶ丘幼稚園・藤ヶ丘保育園・つだ歯科・かおり歯科・ピュア理容・藤ヶ丘センター・会計部井上宅ほか(敬称略)、また、焼き鳥などの販売にも協力して下さいました札幌明食ミート様など関係した皆様、有難う御座いました。多くの皆様が藤ヶ丘パークタウンで行われる「夏まつり」会場にお越し下さり、第二十五回目も楽しみましょう。



自衛隊協力会 藤野・簾舞分会 三年ぶりに 定期総会を開催

札幌市自衛隊協力会藤野・簾舞分会の定期総会が令和四年七月十四日(木)、藤野地区センター集会室Bで、三年振りに開催されました。総会には、寺田良男分会長はじめ、自衛隊からの来賓を含めて、関係者十二人が出席しました。



開会の挨拶に立った寺田分会長からは「昨今のウクライナとロシアの戦争が行われている最中、自衛隊の役割の重要性がますます増している」との話がありました。

続いて自衛隊の増田中隊長から「紛争時だけでなく、コロナや災害時など、自衛隊が役割を果たす場面が増えてきているので、国民の生命と生活を守るためにしっかりと責務を果たしていきたい」となどの話されました。

引き続き議事に移り、令和三年度の事業報告・収支決算及び令和四年度の事業計画案・収支予算案が承認されました。また、議事の中で、自衛隊協力会の会員が年々減少していることが危惧視されるとの意見が出され、今後、新規会員の募集の声掛けを各会員が行っていくことを確認しました。

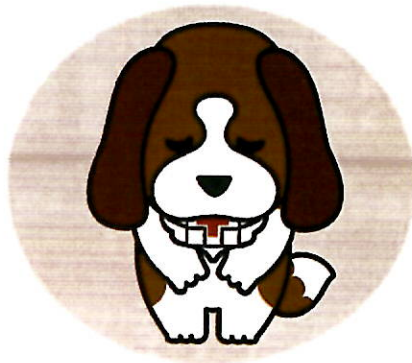
最後に、陸上自衛隊による広報DVDを視聴し、総会を終了しました。

広報副部長任命の挨拶

藤野地区町内会連合会 広報副部長を拝命しました宮川ゆりあ申します。

この度、初めて記事を入れさせていただきます。六ページ〜七ページの二ページしかありませんが、取材や記事の調整、文章、文字数の考慮等、広報部長の渡部さんはじめ、今までルピナスの編集に携わってきた方々には頭の下がる思いです。

日本赤十字社の活動は、皆様からお寄せいただいた社資によって支えられています。今年度も引き続き皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



日本赤十字社北海道支部
マスコットキャラクター「アンリー」

今回、お祭りページですが急遽のお願いにもかかわらず快くお引き受けいただいた高見台町内会会長遠藤様と藤ヶ丘南町内会会長佐藤様に大変感謝申し上げます。この記事を通して皆様の町内会行事への想いに触れることができ、喜びの思いでいっぱいです。

これからも一生懸命精進いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

編集後記

各単町でまつりなどがあり、行事も復活の兆しが現れ、にぎやかな紙面となりました。四面に収載しましたが、藤ヶ丘南の防災訓練には札幌南消防署藤野出張所から消防士の方と消防車が来てくれました。緊急出動があれば駆け付けなければならぬわけですが、幸いそのようなこともなく、秋晴れの下、防災について詳しく説明していただきました。また、普段見られない消防車の積載品を見ることもできました。プロワールという大型扇風機は耐火性の建物に風を送り込んで窓から煙を出すためのもの、水槽車には一分間に放出可能な二千リットルの水が積まれている。まさに「いざ鎌倉」ではないですが、さまざまな道具が実に整然と機能的に積まれています。(渡部記)

ルピナス第一一四号

令和四年十一月十日発行

発行人 吉田 健治
編集人 渡部 徹

宮川ゆりあ

仙北 英治

印刷所 日光広告(株)

連絡先 五九三〇一二五